



# AUE Monthly



2010年 8月 2日

第 25 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500

## 目次

- 行事予定(8月)
- トピックス
- ・学長が一宮西高で講演
- ・留学生が相撲見学
- ・先生を目指す人のための合同説明会
- ・成章高生 200 人が来学
- ・附属図書館で尾張名所図会展
- ・6 年一貫コース説明会
- ・キャンパスミーティング
- ・サイエンス・カフェ
- ・教育関係者との懇談会
- ・学長が国会議員に要望
- ・寮生総会
- ・折出理事がラジオ生出演
- ・JICA 集団研修閉講式
- ・中野弘幸さんがヨーロッパ遠征報告
- ・韓国協定校の事務職員が研修
- ・大学スケッチ展開幕
- ・生協がピアホールに
- ・日本語教室の親睦バーベキュー
- ・ひらめき ときめきサイエンス
- ・天文台一般公開
- ・社会教育主事講習会開講式
- ・あいこね委員会発会式
- ・キャンパスクリーンデー
- ・中島教授が日本陶磁協会賞副賞寄贈
- ・ランチコンサート
- ・あいち子ども芸術大学  
お知らせ・報告・投稿
- ・本学管弦楽団が定期演奏会
- ・井戸准教授からのフィンランド便り

## 行事予定(8月)

- 3日(火) オープンキャンパス(10:00~16:30ごろ 講堂, 共通棟ほか)
- 4日(水) オープンキャンパス(10:00~16:30ごろ 講堂, 共通棟ほか)  
大学院説明会(14:30~ 第一会議室)  
大学改革推進委員会(15:30~ 第三会議室)
- 6日(金) 教育研究基金委員会(14:00~ 名鉄ニューグランドホテル)  
経営協議会と顧問の合同会議(15:00~ 名鉄ニューグランドホテル)
- 9日(月) 教員免許状更新講習開始(10日, 16日~20日, 23日~25日)
- 18日(水) 役員会(13:00~ 学長室)
- 24日(火) 役員会(13:00~ 学長室)
- 26日(木) あいち子ども芸術大学(13:00~17:30 美術教育演習室)
- 31日(火) 役員部局長会議(13:00~ 学長室)

## トピックス

### 学長が一宮西高で講演(7/2)

松田正久学長が7月2日(金), 一宮市の愛知県立一宮西高校を訪問し, 本学への進学を希望する高校生を前に講演を行った。

同校では毎年, 多くの卒業生が本学に入学しており, 講演は学校側の要請に応じて実施された。この日は本学志望の3年生68人が参加した。



松田学長は「ぼくたちが生きた時代と君たちが生きる時代」と題して、昨年創立 60 周年を迎えた本学の歴史を紹介。大戦後の日本の高度経済成長，世界の人口増加，二酸化炭素排出量の増加による環境破壊の深刻化など，時代背景と大学の歩みを重ねて説明した。そして，21 世紀の少子高齢化の中で，日本人として民族や国境をどうとらえるか，人間社会と自然がどう調和していくかが課題として「そういう時代にどう生きるか。大学は何を

やればいいのか問われている」と大学の置かれた状況を高校生たちに訴えた。

「国立大学の役割は，教育の機会均等の保障にある」と松田学長は明言。日本の大学進学率は 67.8%と，OECD 諸国の中で低い水準にとどまっていることを指摘し「家計の多い少ないで進学率が違うというのではいけない。成績優秀者なら授業料を免除するなど，大学は対応していかなければいけない。お父さん，お母さんに（経済的な）負担をかけると心配しているなら，ぜひ国立大学に入学してください」と松田学長が呼び掛けると，高校生たちも真剣な眼差しで聞き入っていた。

その後は，大学の学部について説明。大学憲章，教員養成の実績，二酸化炭素排出量が一定規模の国立大学で全国一少ないことなど大学のさまざまな特色も紹介。「教えるということは希望を語ることで，夢を語れるのが教員。愛教大は，君たちが生きる新しい時代に必要なことが身につくような教育をきちんとやっています」と強調した。最後は「来年春に大学で会いましょう！」とメッセージを送り，講演を締めくくった。

講演後，大学オリジナルの元素周期表入りの下敷をプレゼント。高校生たちからは「イラスト入りで覚えやすい」と好評だった。

### 留学生が相撲見学(7/3)

本学は留学生に楽しいひとときをと，刈谷市内にあるアイシン精機課長会と共催し，「相撲稽古見学とちゃんこを囲む会」を企画して 6 月 16 日（水），23 日（水），7 月 3 日（土）の 3 回に分けて実施した。

3 日間で参加したのは，本学に在籍する外国人留学生計 21 人で，日本人学生 8 人が留学生の補助役を務めた。

一行は 3 日，アイシン精機展示館コムセンターを見学した後，実業団の強豪として活躍しているアイシン精機相撲部の稽古を見学，ちゃんこ鍋を体験した。

相撲では，激しい音を立ててぶつかり合う迫力に圧倒された留学生だったが，次第に慣れて稽古に熱中するあまり大声で応援する場面も見られた。

その後，部員・スタッフと大きなちゃんこ鍋を囲み，和やかな雰囲気での交流を深めた。



### 先生を目指す人のための合同説明会(7/3)



教員を志望する高校生を対象にした進学相談説明会「中部の未来育成塾・先生編～先生を目指す人のための合同説明会」が 7 月 3 日（土），名古屋市中村区の愛知県産業労働センターで開催された。

本学をはじめ教員養成課程のある東海 3 県の 9 大学が参加し，各大学のブースが設けられた。学校案内などが配布され，希望者は入試担当者から直接，大学の説明を聞けるとあって，この日はあいにくの雨にもかかわらず高校生や父兄ら約 200 人が来場。本学ブース

の前には、相談の順番を待つ人の列が絶えなかった。

「どういう免許が取れるのか」「養護教諭養成課程の倍率は」など資格、受験に関するさまざまな質問が寄せられ、入試課の北川純課長補佐、澤田文男係長が約 40 組の親子らに丁寧に対応した。

養護教諭を目指したいという高校生と保護者は相談後「志望科目をどう決めたらいいのかわからなかった。大学に直接聞いてよかった」とホッとした様子で話した。

説明会に先立って、フィギュアスケートコーチの山田満知子さんのトークショーが行われた。「素直な心が才能を伸ばす」と題して、自らのスケートとの出会いやコーチになった経緯、愛弟子の伊藤みどり選手や浅田真央選手らとのエピソードも披露して会場を沸かせた。そして、「気持ち前向きなら、気持ちが伝わり、感動を与えられる。素直にまっすぐに生きてほしい」と受験を控えた親子連れを激励した。

### 成章高生 200 人が来学(7/5)

愛知県立成章高等学校(田原市)の2年生 200 人が7月5日(月)、大学見学説明会に出席するため本学を訪れた。

同日午後、大型バス5台に分乗して来学。到着すると第一会議室へ移動し早速、説明会が始まった。

大学案内が配布され、北川純入試課課長補佐が大学の概要を説明。「愛知教育大学は昨年創立60周年を迎えました。皆さんの学校は創立100年で、ともに歴史ある学校です」と歴史と伝統をアピール。取得できる免許を説明すると、高校生たちは手元の大学案内を見ながら説明に耳を傾けていた。

さらに、在学生の約8割が県内出身者であること、授業料の免除制度など手厚い学生支援があること、海外留学や留学生の受け入れなど活発な国際交流、昨年度の卒業生の73%が教職に就いた実績など学校の特徴も紹介。「団塊世代の教員の定年退職などで、今は教員になりたい人には恵まれている時期です」と教員を目指すなら今が好機と強調した。

その後、岩崎公弥理事(教育担当)による模擬授業が行われた。「地形図を基に地形や土地利用から地域の特性を考える」と題して、琵琶湖周辺の扇状地の地形図から水の流れや集落との関係、地域の特性などを読み取る方法を紹介。岩崎理事は「地図を見ながら謎解きのように、自分でいろいろな疑問を投げかけて地域の特性を考えることができます」と、大学で学ぶ楽しさを伝えた。高校生たちもいつもと違う大学での講義の雰囲気を感じて、見学会を無事終了した。



### 附属図書館で尾張名所図会展(7/5)



附属図書館所蔵資料展「尾張名所図会」が7月5日(月)附属図書館2階のアイ♥スペースで始まり、20日(火)まで開催された。

「名所図会」は江戸時代後期に出版された地誌風の読み物の総称。現在の観光ガイドブックのようなもの。

「尾張名所図会」は天保15(1844)年に初版された。附属図書館には明治13(1880)年の片野東四郎による再版があり、愛知教育大学の前身、愛知県第一師範学校の時代から所蔵。前編7巻、後編6巻からなり、

全編にわたって尾張の名所旧跡、人物や風俗、名産などが紹介されている。

会場には尾張名所図会からの拡大パネル7点、名所の位置関係を示す地図などが展示され、尾張名所図会の全編7巻の現物も並べられた。パネルで紹介されているのは「駅馬会所」(伝馬町。江戸時代、公用旅行者が駅馬を乗り継ぐ場所)、堀川の桜、桶狭間の合戦などで、当時の模様がリアルで人間味溢れるタッチで表現されている。

展覧会を企画したのは情報図書課の稲葉裕美さん。大学時代に日本史を専攻し、近世の尾張地

方の出版を研究した。昨年4月に本学に就職、図書館で新着図書の日録作りの業務を担当しながら、普段は来館者の目に触れることが少ない貴重な資料を展示することで、図書館に興味を持ってもらいたいと、半年がかりで準備を進めてきた。

「大学図書館に入り立てのころ、尾張名所図会を見つけました。これなら知らない人も、普段は読書しない人も楽しんでもらえるはず。これからも面白い資料を掘り起こして紹介したい」と稲葉さん。次回は尾張名所図会の後編の展示会を、アイ♥スペースの空きのある時に行う計画だという。

### 6年一貫コース説明会(7/7)

学部4年間と大学院の2年間を一貫して学ぶ「6年一貫教員養成コース」の説明会が7月7日(水)午後零時40分から、第一共通棟303教室で行われた。

愛知教育大では2006年度から、学部3年生から大学院の授業を受けられる同コースを開設し、画期的な取り組みとして注目されている。この日は、コースに関心のある2年生30人余が説明会に参加した。

冒頭、岩崎公弥理事(教育担当)が「大学の4年間だけでなく、もう少し学びたいという学生のために設置しました。2年生で大学院進学を選択すれば、3年次からは学部の授業と合わせて同コースの演習、4年次からは大学院の授業も受講できます。この春、第1期生が卒業し、皆さんは6期生になります」などとあいさつ。続いて、江島徹郎准教授(情報教育)が「6年一貫」の目的やメリット、デメリットなどを紹介。

「学部にいながら先行して大学院の授業を受けられるので、大学院では他の免許も取れる。より専門的な授業が受けられる」「大学院の入学金が不要」「社会人になるのが遅くなる。授業料がかかる」など具体的に話した。

同コースで学んでいる学生たちは「高校でのボランティアなどで、たくさんの人とかがわることが出来る」(4期生)「6年一貫」の肩書きがあると、いろいろなことができる。院の学生は多くても十数人なので、先生の話もよく聞ける。活動は週に一時間ぐらい。部活やアルバイトとの両立など不安もあったが、メンバーが自分たちの思いを話し合ううちに自分もできるという気持ちになった。コースに入って本当によかった」(3期生)とそれぞれ感想を語った。

さらに、教職大学院の志水廣教授は「理論と実践の融合を目指すのが狙い。学校現場へ出て行くと、経験のない新人でも一人の教員として責任がある。大学院では50人のうち30人は皆さんのようなストレートマスター、20人は30代、40代の現役の先生と一緒に学べる」と大学院で学ぶ魅力を紹介した。

学生たちは説明会などを参考に同コースへの志願届を10月29日までに提出し、選考を経て、来年1月に合否が発表される予定。



### キャンパスミーティング(7/7)

本年度の「キャンパスミーティング」(全学会議)が7月7日(水)、第二共通棟431講義室で開催され、学生、教職員ら約100人が参加して本学の課題などを話し合った。



松田正久学長が「今回が第7回。工夫しながらやっているが、教育研究のために、学生の目線による意見を出してもらえば改善も可能になると思う。気楽に語り合い、新しい大学の出発の日になるように期待したい」とあいさつ。内田良講師(学校教育)が議長を務め、「今日は七夕なので、言うも叶うかもしれません」と口火を切って会議を進めた。事前に学生らに「もの申すシート」を配布、寄せられた227件の意見、質問などを基に岩崎公弥理事(教育

担当), 村松常司理事(学生担当), 折出健二理事(総務担当)が主な意見を紹介しつつ, 大学としての対応などを説明した。

話題に上ったシートの内容は「実習に役立つ, 使える授業をしてほしい」「模擬授業をもっとしてほしい」「大学入試に面接はないのか」「学生と事務職員の休み時間をずらしてほしい」「共通棟で悪臭がする」「構内で不審者と出会う時がある」などさまざま, 各理事が対応や考え方などを示した。会場での質問, 意見も多数出され, 「学内の全面禁煙の方針には賛成だが, 正門付近で喫煙する人への対策も必要では」「部室がなく, OBがつくった小屋のようなものがあるが, 雨漏りがする」との指摘があった。最後に学長は「充実した議論ができ, 学生中心の意見交換ができたのはよかった。学習環境の整備はまだ十分ではないが, 開かれた大学でかつ安全, 安心が実感できるキャンパスにしていきたい」と述べて, ミーティングを終了した。

### サイエンス・カフェ(7/7)



「第2回愛知教育大学サイエンス・カフェ」が七夕の夜の7月7日(水)午後6時から, 自然科学棟5階の地学系理科実験室で開催され, 一般の33人が参加し, 宇宙の不思議に思いを巡らせた。

今回のサイエンス・カフェは, 七夕にちなんで全国約80カ所で開催された「全国同時七夕講演会」(日本天文学会主催, 天文教育普及研究会共催)の催しの一つとして実施された。澤武文教授(理科教育)が「重い星ほ

ど早く死ぬ - 星の進化 -」をテーマに講演した。

「星は, 永遠に輝き続けているように思えるが, 星にも誕生と死というドラマがある」と澤教授。「星とは, 自らのエネルギーで光を放つ巨大なガス球であり, ガスのほとんどは水素とヘリウム。輝くのは, 中心部で, 軽い元素から, より重い元素を合成する核融合反応によってエネルギーを生み出しているから。この反応が進めば, 星の物理状態が変化する。この変化が星の進化。自らエネルギーを生み出せなくなったとき, 星の死。重い星ほど核反応がどんどん起きて水素が使われるので, (星の)寿命は短い」と, 星の誕生から死に至るまでの課程を解説した。

星の誕生, 赤色巨星への進化, 星の死の状態となった白色矮星(わいせい), 星の内側と外側のガスの圧力差で起こる超新星爆発など, 宇宙で繰り広げられる壮大なドラマを写真や模式図を用いて分かりやすく紹介した。

この日は同時に, 刈谷市中央生涯学習センターでもサイエンス・カフェが開かれ, 高橋真聡教授(理科教育)による「ブラックホールは見えるのか?」と題した講演が行われた。

### 教育関係者との懇談会(7/8)

本学と愛知県内教育関係者の懇談会が7月8日(木)午前, 名古屋市中区のKKRホテル名古屋で開催された。相互理解, 連携協力が目的で, 愛知県教育委員会, 名古屋市教育委員会, 愛知県小中学校校長会などの関係者と本学の松田正久学長, 理事, 事務局長, 学系長ら合わせて30人余が出席した。

冒頭, 松田学長が「忌憚のないご意見を聞かせていただき, 大学として参考にしたい」とあいさつ。加藤千博愛知県教育委員会義務教育課長が「訪問科学実験や教師力向上の活動に感謝し, 学校支援, 優秀な教員養成への尽力を今後ともお願いしたい」と述べた。

折出健二理事の司会で松田学長が本学の現状と課題について報告し, 第二期中期目標と組織改革, 教員の質向上策や国立大学法人の状況を説明した。また, 折出理事が共同博士課程, 教職大学院について, 岩崎公弥理事が教員免許状更新講習について, 横地正喜理事が地域貢献事業につ



いて資料をもとに説明した。

この後、意見交換に移り、県内教育関係者からは「リーダーを培っていくためにも（教育）現場の要請を受け入れてほしい」「学生が出身地で活動できるよう配慮してほしい」「発達障害の子どもに対応できる先生が必要」「幼保一元化が議論される中、幼稚園での教育に熱い志を持った学生をたくさん出してほしい」「冬季に免許更新制講習を開催してもらえるのはありがたい」などの要望、意見が出された。松田学長が「財政的に厳しいが、カリキュラム改革など皆さんの知恵も借りながら新しい機能を持つ大学へ改善していきたい」と理解と協力を求め、約2時間の熱のこもった意見交換会を終了した。

#### 学長が国会議員に要望(7/12)



松田正久学長は7月12日（月）以降、中部経済連合会会長をはじめ、愛知県選出の国会議員、刈谷市長らを相次いで訪問し、2011年度の概算要求へ向けた運営費交付金の削減中止を要望、名大、名工大、豊橋技科大の総長、学長との4大学合同による活動を含めて愛知県、東京で要望活動を繰り返した。

7月14日（水）には東京で活動。4大学学長が揃って大塚耕平内閣府副大臣、古本伸一郎財務大臣政務官を訪ね、シーリングによるそれぞれの大学

の影響などを説明して理解を求めた。大塚氏は自治体、独立行政法人などが運営主体（プラットフォーム）をつくり、これまでの無駄を省き、新しい地域戦略を考えていく時、との認識を示した。古本氏は各省庁で事業の優先順位をつけて大臣が判断することになっているとして、日程を説明し、各大臣の概算要求に注目しているとした。

松田学長が単独で訪問した国会議員の中には、国立大学運営の厳しさに理解を示し、教育、大学予算は削減すべきではないと強調する議員もあり、要望活動の成果も感じられた。学長の要望活動には富岡逸郎事務局長らが同行した。

一方、7月17日（土）には名古屋市東区の民主党愛知県連会議室で、4大学の総長、学長と国会議員による意見交換会が行われた。牧義夫県連代表はじめ新人参院議員を含む国会議員12人（うち2人は代理）と杉岡和明幹事長が出席。学長が運営費交付金のシーリングからの除外を要望。議員からは質問、意見が出され、国立大学の現状、高等教育予算などに理解が深まった様子だった。

#### 寮生総会(7/14)

学生寮の寮生総会が7月14日（水）に開催され、懸案となっている寮改修工事について、寮生たちの賛成決議がなされた。

現在の学生寮は1969年に完成。建設から既に40年以上が経過し、改修工事が必要となっている。今年4月、大学側からその旨が寮生会に伝えられると、寮生会では学年ごとの話し合いを経て学年代表者会議を開いて質問状を作成、大学側に提出した。今回は学校側が質問状に回答し、両者が直接話し合っ、建設的な歩み寄りができるようにと開かれた。寮生155人中のうち87人と大学側からは、出張中の松田正久学長に代わって村松常司理事（学生担当）、施設課の職員らが出席した。



寮生からは「4年間かかる改修工事は、どんな流れで行われるのか」「騒音が心配」「寮費が上がり不安」など、次々に質問や要望が飛び出し、学校側が答えた。村松理事は「値上げされるのは改修済みの建物に入ってから。必要な場合は寮費の免除も考えている。今後も皆さんと話し合いの場を設けるので、どんどん意見を出してほしい」と呼び掛け、1時間半にわたり活発な議

論が交わされた。

滝川史明寮長（初等・国語3年）が「後輩たちのためにも、今、改修工事が必要だと感じた。寮生の足並みをそろえる機会にしたので工事の賛否を問いたい」と採決。ほぼ全員が賛成の挙手をして、寮生会として工事賛成を確認した。また、寮生による寮改修工事執行部を組織することも決議された。

最後に寮生の一人が立ち上がって「不安だったが、安心しました。こういう場を設けてもらい、ありがたい」と発言すると、寮生たちが学校側へ拍手を送る一幕も。それを受けて村松理事も「今後も話し合いを続けていきます」と約束し、この日の総会は終了した。

#### 折出理事がラジオ生出演(7/15)

折出健二理事が7月15日(木)、TBS(CBC)ラジオの番組「ニュース探究ラジオ Dig」に生出演した。

同番組のこの日のテーマは「“いじめ”を構造から考える」。いじめ研究のエキスパートとして出演要請があった。パーソナリティーの荻上チキさんと外山恵理アナウンサーが「そもそもいじめとはなになのか」について電話でインタビューした。

いじめの研究を始めた理由、いじめとは何か、いじめの要因などの質問に折出理事は「1990年代の西尾市でのいじめ事件がきっかけ。いじめは、つながれた関係の中で優位に立つものが弱い者に攻撃を加えること。要因は子どもの生きづらさで、その要因は三つ。集団の中で必要とされる人間かどうか存在そのものが脅かされている。要素ごとに人を分解してトータルに見ない。自分のことで精いっぱい相手気遣う余裕がないから」と解説。ネットいじめなど最近のいじめの傾向やその理由に話が及び、解決策を尋ねられると「子どもたちは本当は他者とつながりたい。じっくりとつながりをつくるのが大切。そのためには学校の場合は、先生たちが仕事にゆとりを持つ環境が必要」と指摘した。

リスナーから番組にメールやツイッターで寄せられた質問にも答えながら、約10分間のインタビューを終了した。放送は下記の番組ホームページで聴くことができる。

ホームページは<http://www.tbsradio.jp/dig/2010/07/post-216.html>

#### JICA 集団研修閉講式(7/16)

本学が国際協力機構(JICA)と連携して実施している集団研修「産業技術教育」コースの閉講式が7月16日(金)、研修員8人とJICA関係者、文部科学省およびフィンランド・ユバスキュラ大学の来賓、本学役員、研修実施担当の技術教育講座教員および事務局関係者が出席して行われた。

岩崎公弥理事が出張中の松田正久学長に代わってあいさつ。40日余の研修の労をねぎらうとともに「今回学んだ成果を十分に活かして、自国ひいては国際社会の発展に貢献してほしい」と激励した。それに対して研修員の代表(セントルシアのキャシーさん)が、研修における本学とJICAの支援に対して深い感謝の意を表明し「帰国後は研修成果を自国の産業技術教育に最大限活用したい」と決意を述べた。



閉講式終了後には歓送会が催され、横地正喜理事のあいさつ、鈴木直樹県立刈谷工業高校長の乾杯の発声と続いた。そして、研修員と参加者は用意された料理に舌鼓を打ちながら、研修を振り返っての思い出話に花を咲かせた。本年は、事務職員による「郡上おどり」が披露され、便乗して研修員も法被に身を包んで、一緒になって踊りを楽しんだ。

今回の研修は、例年と同様に、県外研修が盛り込まれ、後半には3泊4日の東京における研修が実施された。東京では、教科書研究センター、教育機器会社、国立科学博物館、教科書出版社、ものづくりで有名な大田区内の工場見学を行った。また、日本の伝統技術工芸文化の理解を目的とした浅草での研修も実施され、研修員には日本の産業技術に関する幅広い知識を得る良い機会になった。さらに、世界銀行東京事務所では、同銀行と本学の共催で「世界のものづくりと教



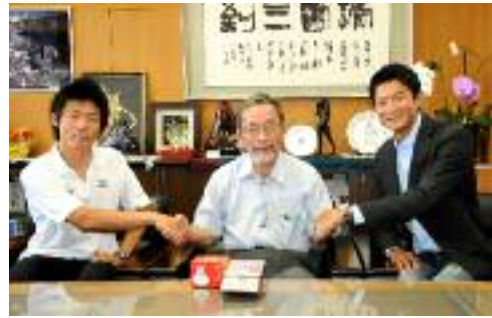
育」と題したセミナーが開催され、研修員 8 人の中から 3 人が代表して自国の状況をプレゼンテーションした。会場は、梅雨時の悪天候にも関わらず多くの参加者が詰めかけた。本学の JICA 研修担当者である宮川秀俊教授（技術教育）も駆けつけて司会を行い、活発で国際色豊かな質疑応答で大変盛り上がった。

閉講式翌日の 7 月 17 日（土）に、研修員は 40 日余を過ごした日本に別れを告げ、大きな研修成果とともにそれぞれの国に帰国した。

#### 中野弘幸さんがヨーロッパ遠征報告(7/16)

日本学生陸上競技連盟のヨーロッパ遠征を終えた陸上男子 400 ㍎の中野弘幸さん（初等・保健体育 4 年、写真 = 左）が 7 月 16 日（金）、木越清信コーチ（保健体育）と共に松田正久学長に帰国を報告した。

中野さんは同連盟が「今後の活躍が期待できる選手」として全国で 10 人の内の一人に選抜され、ヨーロッパ遠征に参加。1 週間の遠征期間中、スイスとチェコでの 2 試合に出場。スイスのベルンで行われた地元の大会では、見事に優勝、チェコでの大会でも 4 位



に入賞した。



松田学長から「いい経験をしたね」と健闘を讃えられると、「ベルンで勝った時は、ピクトリノックスの包丁が賞品でした。母親にプレゼントして、親孝行ができました」と笑顔を見せた中野さん。遠征中の単身での移動にも話が及び、「英語は基本的にボディランゲージで何とかできました」という中野さんに、松田学長は「その何とかなるという経験が大切」と、遠征中の労をねぎらった。

#### 韓国協定校の事務職員が研修(7/20)

7 月 20 日（火）、韓国にある本学の学術交流協定校、晋州教育大学校（韓国・慶尚南道晋州市）から、図書館事務職員の Bae Jeong-ryeol 氏が研修目的で来学した。晋州教育大学校と本学は 1997 年に学術交流協定を締結して以来、留学生の派遣や受入れ、毎年の短期学生交流を中心に、研究者の受入れも積極的に行っており、活発な交流を続けている。この度、同校が事務職員の海外研修制度を新たに発足させ、本学との活発な交流を背景に同氏の研修が実現した。

21 日（水）には松田正久学長を表敬訪問した B a e 氏（写真 = 前列左端）は「滞在中にできるだけ多くのことを貴校から吸収し、帰国後の業務に活用したい」と抱負を述べた。学長は「研修や本学職員との交流を通じて様々な知識を獲得し、是非とも有意義な研修にしていだきたい」と激励した。また、同氏にとっては今回が初来日といい、学長は「休日には色々な場所を訪れて日本の夏を満喫し、日本についての知見も広めていただきたい」と付け加えた。



研修は 8 月 18 日（水）までの約 1 カ月間続き、本学附属図書館での図書館業務研修や学外図書館の視察といった専門職研修のほか、これまで独学で日本語を勉強してきたという同氏の意向も汲み、日本語学習も組み込んだ充実した内容となっている。また、研修中は晋州教育大学校をはじめとする韓国からの留学生 5 人がボランティアの通訳として研修をしっかりとサポートする。

#### 大学スケッチ展開幕(7/21)





愛知教育大学のキャンパス内の風景を村瀬康司さんが描いた展覧会「大学スケッチ展」が附属図書館 2 階のアイ♥スペースで 7 月 21 日（水）に開幕し、村瀬さんを迎えて、オープニングセレモニーが行われた。

今年 1 月末に松田正久学長が岡崎市の旧東海道で安城市在住のスケッチ画家の村瀬さんに出会ったのが縁で、学内のスケッチ画の制作を依頼。これまでに 22 点が完成し、本学に寄贈されることになった。展覧会はこの作品を展示するもの

で、セレモニーでは松田学長から村瀬さんへ作品寄贈の感謝状と御礼の品が贈られた。村瀬さんからは展示作品のうちの 1 点が松田学長に手渡され、飾り付けられた。2 人はがっちりと握手を交わし、ギャラリーから拍手が沸いた。

村瀬さんは「当初は学校が絵になるのかと思いましたが、大学の建物や人物を描くのが楽しかった。新境地になりました。秋の風景も絵にしてみたい」とあいさつ。松田学長は「人との出会いで、こうした作品が生まれた。僕らが注目していない、大学のいろんな場所がこうやって絵になるとは。皆さんも人との出会いを大切にしてください」と集まった学生たちに語り掛けた。

作品は 8 月 31 日まで展示。会期中、アンケートを実施し、上位 4 作品を絵はがきにして大学生協で販売する計画もある。



#### 生協がビアホールに(7/22, 7/23)



夏恒例の生協のビアホールが 7 月 22 日（木）、23 日（金）にオープン、連日の暑さで乾いたのどを潤そうと、多くの来場者でにぎわった。

生協学生委員会と教職員組合の共同開催で行われているビアホールイベントは 20 年ほど前から続く、愛教大の夏の風物詩。午後 5 時、学食がビアホールに“変身”。場内はハワイをイメージした飾り付けがされ、同委員会のメンバーたちがスカイブルーのポロシャツ姿で出迎え、サービルに当たった。入場料は 800 円で食べ放題、飲み

物は別料金のバイキングシステム。

両日とも、日中は 37 度を上回る猛暑日だったこともあり、開場とともに学生や教職員が続々と詰めかけ、冷たいビールや飲み物で、ほっと一息。

23 日には、松田正久学長や理事らも会場を訪れ、ジョッキを手に乾杯。いつもと違ったリラックスムードの中で学生や教職員と談笑した。

#### 日本語教室の親睦バーベキュー(7/24)

愛知教育大学のリソースルーム事業の一つ「土曜日日本語教室」の教員やボランティアの学生たちが受講生たちと一緒にブラジル風のバーベキューパーティー「シュハスコパーティー」を 24 日（土）、大学近くの州原公園で開いた。

本学では毎週土曜日にブラジル人など地域の外国人を対象にした親子日本語教室を実施しており、上田崇仁准教授（日本語教育）は「教室に来る外国人の人にとっては情報交換の場にもなっ



ている。学生たちは日本語を教えたり、日本語が話せない子がいるときにどう教えるかを実践できる場になっている」という。7 年ほど前から、前期の教室最終日にバーベキューパーティーで打ち上げをするのが恒例行事になり、この日は、受講生の家族や地域の支援者なども含め総勢 90 人ほどが参加した。

日本語教育の教員やボランティアの学生たちが朝から受講生たちと準備に当たり、ステーキ肉に岩塩をすり込

み、炭火でダイナミックに焼くブラジル風のバーベキュー“シュハスコ”に舌鼓。トマトやタマネギを使ったスパイシーな自家製ソースでサンドイッチにして食べたりと、ブラジルの味を堪能。また、松田正久学長も飛び入り参加して、自ら肉を焼いて参加者に振る舞うなど国際交流に一役買った。



受講生のブラジル人、バレリアさんは「仕事や家事に追われて、家で日本語を勉強する時間がなかなかないので、子どもと一緒に参加できる教室はありがたい。今日はブラジルの料理を食べながら、みんなと楽しんでいます」とニコリ。ボランティアで日本語教育3年の田中ルリ子さんは「普段は机の上での勉強ですが、今日は勉強を忘れて、お疲れさまという感じ。受講生の人たちといろんな話ができてよかった」と、したたる汗をぬぐいながら笑顔で話した。

### ひらめき ときめきサイエンス(7/24)

大学の研究成果を子どもたちに知ってもらおうという科学イベント「ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」が7月24日(土)午後、第一共通棟で開かれ、地域の中高生と保護者、教職員やボランティアの大学生ら100人余が参加した。

「ひらめき」は日本学術振興会の委託事業で、青少年に科学への関心を高め、将来的な科学力の向上を図るのが狙い。今年度は全国で約200のプログラムが展開され、愛教大では3プログラムを実施。



24日は「世界の国ぐにを理解しよう～貿易ゲームで学ぼう!」をテーマに水野英雄准教授(地域社会システム)が指導。前半は水野准教授が「なぜ貿易をするの?」「世界が豊かで平和になるために」と題して講義。クッキータイムには研究生や学部学生、大学院生とお茶やお菓子をとりながら交流、続いてメインの「貿易ゲーム」がスタート。中高生たちは3、4人のグループに分かれ、それぞれのグループに与えられた材料とはさみや定規などの道具を駆使して指定された“規格製品”を製造。出来上がった製品を売り買いして、“貿易”を疑似体験した。

「大学での勉強は自分で調べて考えること。他人の意見を聞き議論すること」とアドバイスされると、最初は遠慮気味だった中高生たちも、限られた材料や道具をグループ間で積極的にやり取りして売上をアップして、次第に貿易ゲームに夢中になっていった。その後はグループディスカッション、修了式が行われ、参加者に「未来博士号」が授与された。

なお、「ひらめき」のその他のプログラムとして、7月31日(土)と8月1日(日)は星博幸准教授(理科教育)による小中学生対象の「地層と化石を調べてみよう! 大地の成り立ちを野外観察から探る」、31日は高橋真聡教授(同)による高校生対象の「宇宙に『ブラックホール』は実存するのか?」が行われた。

### 天文台一般公開(7/24)

本学天文台の一般公開が7月24日(土)に行われ、小中学校は夏休み期間とあって多くの親子連れを含む一般市民60人ほどが、真夏の夜の天体観測を楽しんだ。

観測に先だって、午後6時から澤武文教授(理科教育)による「天文ミニ講座」が自然科学棟5階の地学系理科実験室でスタート。「太陽系の形成」をテーマに、太陽系の8つの惑星、およそ50億年前の太陽系の誕生、惑星の大きさや密度など、太陽系の形成について、写真や図表を交えて分かりやすく解説。質疑応答では参加者から「冥王星が太陽系の惑星から外れたのはどうして?」などの質問が寄せられ、澤教授が最新の見解を紹介した。

午後7時からは、自然科学棟屋上での「天体観望会」。





「半月状の金星を見よう!」と題して、この時期の夕方、西の空にひときわ明るく輝く金星を観察。40センチ望遠鏡で倍率120倍で見える金星は、右下が欠けた半月状のシルエットがくっきりと確認でき、参加者から歓声が上がった。さらに土星もドーナツ状の輪が鮮やかな姿が観察され、参加者を喜ばせた。

また、この日は満月に近い月も観察。望遠鏡を通して金色に輝く月の表面にクレーターが鮮明に観察することもできて、訪れた人たちは満足そうだった。

次回の天文台一般公開は9月11日(土)午後5時~8時の予定。

### 社会教育主事講習開講式(7/26)

「平成22年度愛知教育大学社会教育主事講習」の開講式が7月26日(月)、受講生をはじめ、関係者が参加して、大学会館中会議室で行われた。

本学で開催されるのは4年ぶり。愛知、岐阜、三重、静岡県の社会教育主事44人が参加して、8月26日(木)まで社会教育についての講義や演習が予定されている。

開講式では、本学の松田正久学長が「本学も国立大学法人化以降、教員養成において極めて大きな転換点を迎えている。劇的な少子高齢化社会の中で、生涯教育、社会教育は避けて通れない。暑いですが、体調に留意して頑張ってください」とあいさつ、受講者を激励した。

続いて、社会教育主事講習運営委員会委員長の村松常司本学理事、愛知県教育委員会生涯学習課の松尾茂主幹があいさつ、受講者を代表して愛知県東三河教育事務所の中嶋桂課長が宣誓をして開講式は終了。記念撮影の後、早速オリエンテーションが始まり、約1カ月にわたる講習がスタートした。



### あいこね委員会発会式(7/27)

学生・教職員による教育改善のためのボランティア委員会「愛教大CoNandE委員会」、通称「あいこね委員会」の発会式が7月27日(火)午後零時40分から、第一共通棟106教室で行われた。

同委員会は、大学教育・教員養成開発センターが支援し、よりよい教育環境や授業づくりに興味・関心のある学生や教職員がボランティアとして参加する組織。本学の憲章に謳われた「教育改善への学生参画の保障」に基づき、大学の義務であるFD活動に対して、構成員である個々の学生、職員、教員の立場から具体的に提案するのが目的。ちなみに「愛教大CoNandE委員会」とは、Committee of Non-obligation and Edutainmentの略で、「義務でなく、教育を楽しむための委員会」という意味。



発会式には、これまでのボランティア募集の説明会などに参加した学生や教職員30人余が出席。メンバーの顔合わせと、委員会の趣意や今後の活動などを確認した。

同委員会では今後、定期的な会合を開き、大学教育の改善に関する提案をしていく予定で、当面は学外の学生・職員参画型のFD研修に参加し、本学のFDのあり方を研究する。

8月28日(土)、29日(日)に立命館大学、9月4日(土)、5日(日)に岡山大学での「FDサミット」にメンバーを派遣。さらに、委員会主催で、学内外の講師を招いた講演会・シンポジウムの開催、大学改善のための提言や実践活動も行うという。

## キャンパスクリーンデー (7/28)



学内一斉清掃「キャンパスクリーンデー」が7月28日(水)朝に行われた。

例年は昼休み後に全学参加で実施されるキャンパスクリーンデーだが、今年は連日の猛暑で作業中の熱中症の発症などが心配されたため、時間帯を午前8時半に繰り上げ、時間を1時間に短縮。授業開始前の作業とあって、参加も全学から、職員と有志とした。

参加者の多くはTシャツやジャージなど準備の態勢で、施設課が用意したゴミ袋と軍手を手に通路や

垣根のゴミを拾い集めた。回収したゴミは、紙くずやビニール、壊れた傘、缶、ビンなど雑多なものから、テレビやパソコン、工事用のパイプなどの粗大ゴミまでさまざま。1時間の清掃作業で可燃、不燃のゴミ袋、計140袋分が集まった。

8月3日(火)、4日(水)のオープンキャンパスには、参加者が汗を流してきれいになった学内に多くの来場者を迎えることになる。

## 中島晴美教授が日本陶磁器協会賞副賞寄贈(7/28)



2009年度日本陶磁器協会賞を受賞した美術教育の中島晴美教授が7月28日(水)、学長室を訪れ、22日に東京で行われた授賞式の模様を報告し、賞金(20万円)を本学に寄付した。

中島教授は同年度に最も活躍した陶芸家と評価され同賞を受賞。日本陶磁器協会賞金賞を受賞の森野泰明さんとともに、22日(木)には受賞記念展(22~30日)の会場となった東京・銀座の和光並木館、並木ホールで授賞式が行われた。

授賞式で中島教授は「陶磁器の世界で最



も伝統のある大きな賞をいただいたことは感慨深いものがあります。私

の師でもあります柳原睦夫先生が、お金や地位や名誉ともう一つ大切なものがあると話されましたが、今回こんなに褒められてこんなに大きな拍手をいただきますと、これに勝る喜びがあるのかと思ってしまうのですが、今こそ、先生の言葉を思い出して、これからも「陶芸の造形」の姿を求めて制作を続けていきたい」と喜びを語った。



## ランチコンサート(7/28)

音楽科の学生たちによる「ランチコンサート」が7月28日(水)午後零時40分から、附属図書館2階のアイ♥スペースで開催された。

ランチコンサートは年に4回、シーズン毎に開催されている学内の催し。今回は2年と3年の



計70人が出演し、これまで合唱の授業で練習を重ねた成果を披露した。

演目は2年生が「白いページ」「聞こえる」、3年生が「ひとつの朝」「予感」、2、3年合同で「千の風になって」「大地賛頌」の6曲。学生たちが心を一つに合わせた

歌声は、外の暑さ忘れさせる一服の清涼剤のように爽やかに響き、開場を埋めた大勢の聴衆はじっと耳を傾けた。途中、サクスの演奏や指揮をする林剛一教授（音楽教育）が力強いソロを披露するサプライズもあり、コンサートに花を添えた。



折しも会場では村瀬康司さんの「大学スケッチ展」が開かれており、スケッチ作品とコーラスのユニークなコラボレーションも実現した。

コンサート終了後、林教授は「本番があると思うと、学生たちも日ごろから、練習にも気持ちが入ります。せっかく教育大学で音楽科もあるので、聴いていただく方にも気軽に音楽を楽しむ機会になれば嬉しい」と思いを語った。

次回のランチコンサートは、秋に大学院生による企画が予定されている。

### あいち子ども芸術大学(7/30)

愛知県内の小中学生を対象に、さまざまな芸術に親しんでもらおうという体験講座「あいち子ども芸術大学」の1講座「羊毛で立体を作ろう」が7月30日（金）午前11時から美術第二実習棟1階織物工房で行われた。



あいち子ども芸術大学は、時代を担う子どもたちに、優れた芸術文化に出会い、身近に親しむ機会を提供しようというもの。愛知県などで組織する「あいち子ども芸術大学実行委員会」が主催して2006年からスタート。本学でも07年から講座を受け持ち、今年は全36講座

のうちの2講座を開講。

「羊毛で」は、羊毛から物入れを手作りしようという内容。小学5、6年生が対象で、この日は刈谷市をはじめ、豊田、三好、名古屋市などから16人が参加。講師のオオヤマ・エリナ・マルケッタ准教授（美術教育）の指導で、子どもたちは、自作の型紙の上に色とりどりの羊毛を重ねてフェルト状にして継ぎ目のないポシェット作りにチャレンジした。

羊毛を少しずつ重ね合わせて、ゴシゴシと揉む地道な作業をマルケッタ准教授とアシスタントの学生たちと続けた子どもたちは、時間と手間をかけて出来上がった作品に満足そうだった。



### お知らせ・投稿・報告

#### 本学管弦楽団が定期演奏会(8/8)

本学管弦楽団は第73回定期演奏会を8月8日（日）（午後5時45分開場、6時30分開演）、愛知県芸術劇場コンサートホールで開催します。

客員指揮は寺島康朗氏。曲目はベートーベン/交響曲第3番 変ホ長調 op.55「英雄」、ドリーブ/バレエ組曲「シルビア」、シベリウス/カレリア序曲。入場料は全席自由800円（前売り700円）。主要プレイガイドで発売中。

ホームページは<http://AUEorchestra.hp.infoseek.co.jp/>

#### 井戸准教授からのフィンランド便り（投稿）

7月に入ってからヘルシンキも夏らしくなり、30度を越えることも珍しくなくなりました。聞けば50年振りの暑さだとか。湿度はそれ程高くないので蒸し暑さはありませんが、ここフィンランドでそんな夏日を毎日過ごすことになるとは思ってもいなかったため、十分な夏支度をして来ておらず、先日は暑さにたまりかねてサンダルやショートパンツを慌てて買いました。街中の公園ではこの限られた日光を存分に浴びるべく、水着に着替えて日光浴をしている姿を良く見か



けます。やはりフィンランド人にとっては今がまさに最高の季節ということでしょう。

さて、5月一杯で大学の授業は全て終了し、6月以降夏休み(約4カ月!)に入っているのですが、ようやくまとまった時間が取れるようになったこともあり、毎日アトリエで制作活動を続けています。最上階(9F)にあるアトリエ(写真上)に至っては35度にもなり、当然エアコンなどはありませんから、ここはヘルシンキで一番暑いのではないかなと思うような暑さです。

以前にも少し話しましたが、このアトリエは大学のものではなく、同じ建物内に混在するアラビア製陶(厳密にはイッタラ社)のもので、アートデパートメント(写真下)と呼ばれています。現在専属でいるアーティストは8名。廊下を挟んでそれぞれ個室のアトリエを持っています。私は1年間ここのゲストとしても招いて頂き、制作については主に大学ではなく、このアートデパートメントで行ってきました。アラビアにおけるアートデパートメントは、世界的に見ても極めて稀な存在です。何故ならここに滞在しているアーティスト達はアラビアという企業と関係を持ちながらも、彼らが制作しているものはアラビアの商品とは直接関係のないアートピースだからです。歴史を紐解くと長くなりますので省略致しますが、今現在もアートデパートメントが存続している理由は、彼らが生み出す作品が直接的には関係なくても、間接的に(特に文化的側面において)アラビアという企業に良い影響を与えているからに他ならないでしょう。また、長い歴史を持ったアートデパートメントは数多くのアーティストやデザイナーを輩出し、この事実がアラビアという企業の誇りにもなっていることと思います。

私の制作活動もピークを迎え、ほぼ毎日深夜帰宅という日々が続いております。ここで制作をしている限りアラビアから様々なバックアップ(材料やテクニックなど)を受けることができ、制作に専念できるというのはとても恵まれた環境です。また他のアーティストたちの存在はとても刺激になり、ここでの活動は今後の自分に大きな影響を与えることは間違いありません。残り時間も長くはなくなりましたが、実りあるものにするべく精一杯過ごしたいと思っております。(井戸 真伸)



## 編集後記

7月から本学の広報担当職員として小林則子氏が就任しました。今後とも、よろしくお願い致します。(折出)

緑豊かで広大なキャンパスでは毎日発見の連続です。多彩な動植物、西の空に広がる鮮やかな夕日、夕立の空の端にかかった七色の虹、高台にある学舎屋上から望む夜景...そんな環境で学べる学生の皆さんが実に羨ましいです。ところが、今月初旬、突然降ってわいた国立大学運営交付金の大幅削減の動きで、日本の国立大学の置かれた厳しい現実を突きつけられたのも事実です。そこで広報として何ができるのでしょうか!? まずは愛教大の魅力を学内外に広めていくのを使命に、フレッシュな話題を発信していくことだと考えています。それには、学生の皆さん、教職員の皆さんの協力が欠かせません。楽しい出来事、伝えたい案内があれば、下記のメールアドレスにお気軽にお寄せください。AUE Monthly はじめ、さまざまな機会にご紹介していきます。(K)

## 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者:総務担当理事 折出 健二